

# 山木遺跡出土建築部材の調査

はじめに 静岡県伊豆の国市（旧・菰山町）に位置する山木遺跡は、弥生時代末期から古墳時代前期の水田跡と、平安時代後期頃の条里水田跡を主体とする遺跡である。昭和25年に八幡一郎らによりおこなわれた第1次調査にはじまり、2006年度の第19次調査まで、発掘調査が重ねられている。

山木遺跡の特筆すべきことに、木製品が大量に出土していることがあげられる。第1次調査で出土した木製品のうち、166点が重要民俗文化財に指定されている。これら木製品のなかには、建築部材も含まれており、特に柱にささったまま検出された鼠返しや梯子などは、登呂遺跡の高床建物の復原にあたり参照された（図88）。

しかしながら出土建築部材の大半については、報告書のなかでも「長年月をかけて専門家の解明をまちたい」とするようになり、考察がおよんでいなかった。

奈良文化財研究所では、科学研究費補助金基盤研究（A）「遺跡出土の建築部材に関する総合的研究」（研究代表者：島田敏男）を進めるなか、静岡県伊豆の国市教育委員会の協力により、菰山郷土史料館に収蔵されている山木遺跡出土の建築部材を調査する機会をえた。上記研究費の報告書においては重要民俗文化財指定されたもののうち、建築部材と判断したものについてまとめた。

本稿においては、調査の概要を紹介するとともに、特徴的な仕口をもつ1本の部材について考察し、出土建築部材の建築史的考察の可能性を提示したい。

出土建築部材調査の概要 出土建築部材を調査するにあたり伊豆の国市教育委員会より、山木遺跡出土木製品のリストおよび整理用写真と、重要民俗文化財指定木製品の実測図の提供をうけた。リストに掲載された木製品は5745点で、遺物ごとに次数ごとに通し番号がふられている。このうち建築部材に分類されたもので769点、土木材に分類されたものは2632点におよぶ。

全点調査が理想的であるのだが、限られた時間のなかで、効率的に成果をあげるため、あらかじめ建築部材と推測されたものを中心に、選別をおこない、建築部材もしくはそれに類するものを選別した上で、建築史を専門とする研究員により調査をおこなった（図89）。

以下では山木遺跡第2次調査で出土した部材について紹介する。

斜めの欠き込みをもつ部材 1968年におこなわれた第2次調査でも2000余点の木製品が出土したとされる。当時の報告書では、柱・礎板・横架材・梯子などが報告されている。今回とりあげる「Y002W0303」は未報告であった（図90）。本部材の出土位置、層位については不明であるが、後の調査によると古墳時代前期のものと同推測することができる。

全長231cm、直径7.2cmの心持ちの丸太材で、端部をノミで有頭状に造り出す。もういっぽうの端部は折れており、当初の全長はさらに長かったと考えられる。有頭状に造り出す端部は先端から39.5cmのあたりで斜めに落とすところまで、丸材を半裁した上で、チョウナで丁寧に仕上げている（図91）。側面にはノミをあてたと考えられる痕跡があるが、意図は不明である。ほかには、顕著な



図88 鼠返しと柱の出土状況（『菰山町史』より転載）



図89 調査風景

痕跡はみられない。以下では、斜めの欠き込みと有頭状の端部について、その意味を考察したい。

端部を有頭状に加工する棒材は全国各地から出土しているが、鳥取県鳥取市の青谷上寺地遺跡より出土した部材はその出土状況から垂木と判断されている。長さは250cm前後のものを標準とし、厚さ、幅は4cmと6cmのものが多い。本部材は長さは231cm以上、直径7.2cmと青谷上寺地遺跡出土部材と近い値を示しており、垂木材であった可能性が指摘できる。

いっぽう、材を半裁する斜めの欠き込みは約30度の傾きをもつ。本部材を垂木と想定し、同じ仕口をもつ材と相欠となると考えた場合、その勾配は30度と60度の2通りの可能性がある。交差した材の上には棟木がのると考えられる。勾配を問わず、仕口より上端まで約40cmは突出することになる。そして有頭状に加工した端部はさらに意匠的に飾りたてることとなる。棟を飾るという思考の持ち方は、まさに神社建築の千木にも通じるものが見出せる。

おわりに 現存する遺構がない古墳時代以前の建築の姿は、おのずと推測の範囲が大きい。山木遺跡から出土した建築部材の大半は、検出状況からその使用方法を特定するのは困難である。本稿で考察した部材の使用法についても推測の範囲をでるものではない。しかしながら、各部材にきざまれたさまざまな痕跡を最大限読み取り、積み重ねることではじめて、当時の建築の規模、形態、技法を推測することが可能となる。

なお調査にあたっては、山田康雄氏（伊豆の国市教育委員会）、政木愛子氏（菰山郷土史料館）に多大な協力を賜った。文末ではあるが、ここに記して謝意を表したい。

（鈴木智大）

参考文献

菰山町史刊行委員会『菰山町史 第一巻 考古編』1979。  
 伊豆の国市社会教育委員会『山木遺跡——一般県道函南停車場  
 反射炉線緊急交通環境改善対策事業に伴う第19次発掘調査報告書—』2007。  
 宮本長二郎『日本の美術第490号 出土建築部材が解く古代建築』至文堂、2007。  
 浅川滋男・嶋田善朗「青谷上寺地遺跡出土建築部材による弥生建築の復元」『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告4 建築部材（考察編）』鳥取県埋蔵文化財センター、2009。



図90 斜めの欠き込みをもつ部材 1：15



図91 材に残る斜めの欠き込み